



ドラえもののポケット

校長 清水 一司

1月13日は降雪予報も出るほどの寒い日だったにもかかわらず、学校公開に236名の保護者や地域の皆様にご来校いただきました。皆様に、本校教育活動をご覧いただくことができ嬉しく思っております。ありがとうございました。

私がお世話になっている病院の待合には、子ども向けに「ドラえもん」のビデオが流れています。ご存じのとおり、猫型ロボットのドラえもんは、のび太の助けに応じてポケットから様々なひみつ道具を出します。子どもには頼もしい友達に思えるでしょう。

先日利用したレストランでは、猫の顔を持ったロボットが配膳していました。このレストランでは、客席のタブレット端末から注文し、会計はセルフレジでしたので店員（人間）と会話する必要がありません。ロボットはプログラムさえ間違えなければ24時間正確に働いてくれます。人件費もかからず、経営者にとっては都合がよいのでしょう。

中国では、客と乾杯してお酒を飲む配膳ロボットが評判になっているようです。女性の人型ロボットのようですが、実は生身の人間の女性がロボットの真似をしていたとのこと。配膳の仕事をロボットに奪われ、人間がロボットの真似をして仕事をするようになったのでしょうか。このお店はこの女性が評判を呼び、客が増えたそうです。

広島県には算数の授業を人型AIロボットが行っている小学校があるそうです。顔の部分のモニターに問題を提示したり、笑ったり困ったり、問題の解き方を表示したりします。このロボットは児童と対話もできるそうです。とうとう教員の仕事もロボットに奪われるのか…と思いきや、このロボットには人間にかなわないところがあるとのこと。例えば、算数・数学で子どもが誤答した場合、我々（生身の人間である）教員は、「問題文が理解できないのか」「計算を間違えたのか」「考え方を間違えたのか」など、子どもの躓き状況に応じて支援をします。ところがこのロボットは、子どもが誤答しても正しい解き方を教えることしかできないのだそうです。（参考 2024年1月10日付 読売新聞）

現在、教育の世界では「個別最適な学びの実現」が叫ばれています。子どもの躓き状況に応じてドラえもんのひみつ道具ならぬよくわかる支援が出せるように教員がポケットを持っておくこと…、これも個別最適な学びの一形態であると考えています。そしてまた、ここに我々教員が存在する意義があるとも考えています。